



参加体験型環境教育プログラム

プロジェクトワイルド

エデュケーター(一般指導者)養成講座

参加申し込み
好評受付中!

8
21
(木) まで

謹啓 盛夏の候 皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、国営ひたち海浜公園では、8月21日(木)まで『参加体験型環境教育プログラム「プロジェクト・ワイルド」エデュケーター(一般指導者)養成講座』の参加者(定員 30 名)を募集していますのでお知らせいたします。

「プロジェクト・ワイルド」は学校や野外活動において、生きものを通じて環境を学び「自然や環境のために行動できる人」を育てる環境教育プログラムです。米国において長い時間をかけて、教育者、環境保全・自然保護に関わる人、野生生物管理者、企業や産業の代表者など多くの人の協力を得て開発され、これまで全米で100万人以上、日本においては14,457名の指導者が誕生しています。(2008年4月現在)

この講座では、プロジェクト・ワイルドの概念や、使命を学び、アクティビティ(活動)の参加体験や、実際の指導にあたっての体験等を行います。18歳以上の環境教育に関心がある方であれば、どなたでも受講できます。

つきましては、皆さまには御多忙中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしくお願いいたします。

謹白

プログラム例

「瞬間冷凍動物」

本編:第3章 生態系の原理

野生動物は、捕食者と獲物の関係(例えばキツネと野ウサギ)において、生きるために様々な行動をとります。例えば獲物の行動には、逃走する、戦う姿勢をとる、隠れ場所に逃げ込むなどがあります。あるいは捕食者に見つかれば捕まらないように、その場で「凍りついたように動きを止める」こともあります。このアクティビティでは、「氷鬼(こおりおに)」に似た要領で、営巣地、食事場所、それに隠れ場所を散りばめたコートを作り、捕食者と獲物に分かれ各々の生き残りをかけて鬼ごっこします。

【体験からこんなことを学びます】

捕食者と獲物の両方に「適応」が重要な意味をもつことがわかるようになります。

捕食者と獲物の関係など、野生生物の個体群に影響を及ぼす制限要因がわかるようになります。



「瞬間冷凍動物」
アクティビティ実施風景

お問い合わせ先

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4
 ひたち公園管理センター企画課 穂積・田中・森下
 電話(029)265-9005 FAX(029)265-9339
 お客様問い合わせ番号(029)265-9001
 ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp>

プロジェクトワイルド

「自然の大切さ」を理解するだけでなく、「自然や環境のために行動できる人」を育成することに取り組んだ、生き物を題材とする環境学習プログラムです。アメリカで開発され、日本では(財)公園緑地管理財団が唯一ライセンス契約を行い、普及・啓発に努めています。

目的

近年、地球規模で環境問題への関心が高まる中、学校、地域社会、行政等の立場で「環境教育」における新たな取り組みが課題とされています。都市公園では平成8年度より、市民の環境活動や指導者の育成拠点として「環境ふれあい公園」の整備が進められています。このような公園緑地でのニーズを受けて、プロジェクト・ワイルドの内容及びその活動を、広く普及・啓発することを目的として、本講座を実施します。

特徴

What to think (何を考えるか)ではなく、**How to think**(どのように考えるか)を指導します。

子どもたちが夢中になる楽しさがあります。

各アクティビティは、実際の授業や現場の状況に応じて、容易にアレンジができます。

生態系の仕組みや人間との関係などを模擬体験することができます。

エドゥケーター(一般指導者)養成講座について

プロジェクト・ワイルドのエドゥケーター(一般指導者)を養成する講座とし、概念や、使命を学び、アクティビティ(活動)の参加体験や、実際の指導にあたっての体験等を行います。

実施日時

平成20年8月31日(日) 10:00~17:30 (9:30受付開始)

主催

財団法人公園緑地管理財団 ひたち公園管理センター

対象

環境教育に関心を持つ方、公園緑地・ネイチャーセンター等における指導者等

定員

30名(定員になり次第締め切り)

参加費

8,100円(テキスト、資料代、入園料、保険料等含む) 当日、受付にて徴収

場所

ひたち公園管理センター

講師

郡司晴元氏。プロジェクト・ワイルド上級指導者(ファシリテーター)。茨城大学教育学部准教授、1968年茨城県生まれ。大学・大学院では自然人類学・霊長類学を専攻。学生時代から、野外教育、環境教育のボランティア活動にも関わる。非常勤講師、(財)日本モンキーセンター・リサーチフェローなどを経て、2004年4月から茨城大学勤務。大学では環境教育演習などの授業を担当。

申し込み方法

参加募集チラシの下部についている申込用紙に必要事項を記入の上、FAX または郵送でお申込みください。

申し込み締め切り

8月21日(木)

プロジェクト・ワイルド エducーター(一般指導者)養成講座の様子

平成 19 年 8 月 25 日(土)実施風景

動物が生きるために必要なことってなんだろう？

「オー・ディア！」

動物が自然の中で生きていくためにはどんな環境が必要なのかを考え、体を動かしながら学ぶのが「オー・ディア！」です。参加者は、“シカ役”と良い環境のために必要な3つの“要素役”(食物・水・隠れ場所)に分かれ、シカ役は生き残りをかけて自分が必要とする要素役を取り合い、要素を確保できたシカの個体数変化を調べます。



体を動かしながら学習



シカの個体数の変化をグラフで確認

この先も生き残れる魚ってどんな魚？

「魚を作ろう」

水生生物は、長い時間をかけて姿や形などを変化させて、外敵から身を守り生き残ってきました。「魚を作ろう」は、動物全般における環境への適応能力の重要性を理解するプログラムで、「口・体型・体色・繁殖方法など、どんな特徴を持った魚が最も環境に適応できるのか？」についてグループで話し合い、出た意見に基づいてグループごとに1匹の魚の絵にまとめます。



グループで意見交換



グループごとに魚を描いて発表